令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育(リ・スキリング)推進」事業

生成AIの利活用の知識と技術
教育演習自己採点基準

本生成 AI の利活用の知識と技術教育演習自己採点基準は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、学校法人第一平田学園　中国デザイン専門学校が実施した令和7年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育（リ・スキリング）推進事業」の成果物です。

アパレル産業における社会変化に対応した技能アップデートプログラムの開発と実証事業

目 次

自己採点基準

1. 生成 AI とは何か：基礎知識と定義 …… 1
2. 代表的な生成 AI：ChatGPT・画像生成 AI とは …… 4
3. ChatGPT の基本操作と機能理解 …… 7
4. 良いプロンプトの条件と書き方 …… 10
5. 商品紹介文の生成手法 …… 13
6. SNS 投稿文・キャッチコピー生成 …… 16
7. ブログ・読み物コンテンツの AI 生成 …… 19
8. メールやチャット対応文の AI 作成例 …… 22
9. AI による顧客アンケート分析 …… 25
10. 市場調査・競合調査での活用法 …… 28
11. SWOT やペルソナ設計での活用アイデア …… 31
12. Excel・データ処理系の支援活用 …… 34
13. 画像生成 AI の概要（Midjourney 等） …… 37
14. ファッション画像の生成の仕組み …… 40
15. コーディネート画像作成の具体例 …… 43
16. バナーや POP の生成と工夫 …… 46
17. Web サイト用素材生成のポイント …… 49
18. 動画生成 AI の活用範囲 …… 52
19. スタイリング提案の自動化と AI …… 55
20. ファッション業界の事例紹介（国内） …… 58
21. ファッション業界の事例紹介（海外） …… 61
22. 生成 AI 導入による業務効率改善例 …… 64
23. 社内共有や教育での導入ステップ …… 67
24. AI の限界と誤用リスク …… 70
25. 法的リスクと著作権・倫理的課題 …… 73
26. ChatGPT のリスクと安全な使い方 …… 76
27. 画像生成 AI における注意点 …… 79
28. 今後の技術トレンドとファッション活用 …… 82
29. 成功のための導入ステップ整理 …… 85
30. 生成 AI が変えるファッション広告表現 …… 88

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 01

自己採点基準表



演習課題 01

（20点）

AIの進化の歴史を簡潔にまとめ、1950年代・1980年代・2010年代・2020年代における主要な変化をそれぞれ1文ずつ説明してください。

評価観点	配点	評価基準
4つの年代の明記	4点	「1950年代」「1980年代」「2010年代」「2020年代」の4つをすべて記載している
1950年代の説明	4点	「人工知能という概念が提唱された」など、AIの始まりを1文で説明している
1980年代の説明	4点	「エキスパートシステム」など、知識ベース型AIの特徴を1文で説明している
2010年代の説明	4点	「ディープラーニング」や「機械学習」など、技術革新を1文で説明している
2020年代の説明	4点	「生成AI」「ChatGPT」など、新しいAIの活用を1文で説明している

演習課題 02 （20点）

従来型AIと生成AIの違いを、目的と出力内容の観点から説明してください。

評価観点	配点	評価基準
目的の比較	8点	従来型AIの目的（分類・予測など）と生成AIの目的（創造・生成など）の違いを記載している
出力内容の比較	8点	従来型AIが「正解を出す」、生成AIが「新しい内容を生み出す」といった違いを記載している
比較構造	4点	両者の違いを1文または1段落内で対比して説明している

演習課題 03 （20点）

生成AIの仕組みを「入力（プロンプト）」「学習」「出力」の流れで簡単に説明してください。

評価観点	配点	評価基準
入力の説明	6点	「ユーザーの指示」「プロンプト」など、入力内容について1文で説明している
学習の説明	6点	「大量のデータを学習」「パターンを理解する」など、学習過程を1文で説明している
出力の説明	6点	「文章や画像を生成」「回答を作成する」など、出力過程を1文で説明している
順序の正確さ	2点	「入力→学習→出力」の順に記載している

演習課題 04 （40点）

生成AIがアパレル業界で注目されている理由を2つ挙げ、それぞれ具体例を交えて説明してください。

評価観点	配点	評価基準
理由の明記	10点	理由を2つ記載している（番号または箇条書きで明示している）
各理由に対応する具体例	10点	各理由に1つずつ対応した具体例を記載している
理由と例の対応関係	10点	理由①に例①、理由②に例②が対応している構成になっている
記述の形式	10点	各理由を1文、各具体例を1文で構成している（合計4文構成）

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 02

自己採点基準表



演習課題 01 （20点）

ChatGPTの仕組み

評価観点	配点	評価基準
入力の説明	6点	「ユーザーが文章を入力する」など、指示文の入力に言及している
学習の説明	6点	「大量のテキストを学習」「次の単語を予測」など、学習プロセスに言及している
出力の説明	6点	「自然な文章を生成」「回答を出力する」など、生成結果に言及している
流れの順序	2点	「入力→学習→出力」の順に説明している

演習課題 02 （20点）

自己注意機構の役割

評価観点	配点	評価基準
用語の明記	4点	「自己注意」または「Self-Attention」という語を明記している
仕組みの説明	8点	「単語同士の関係を重み付けする」「文脈を理解する」などの仕組みに言及している
効果の説明	8点	「文全体の意味を把握できる」「精度が向上する」などの結果・効果を1文で説明している

演習課題 03 （20点）

拡散モデルの理由

評価観点	配点	評価基準
用語の明記	4点	「拡散モデル」または「Diffusion Model」という語を明記している
基本原理の説明	8点	「ノイズを加えて学習」「ノイズを取り除く過程」などの仕組みに言及している
理由の説明	8点	「高品質な画像を生成できる」「学習が安定する」などの理由を1文で説明している

演習課題 04 （20点）

ChatGPTと画像生成AIの比較

評価観点	配点	評価基準
共通点の記載	8点	両者が「生成AIである」など共通する点を1つ明記している
相違点の記載	8点	出力対象（文章と画像）や技術（言語モデルと拡散モデル）の違いを1つ明記している
構成	4点	共通点と相違点をそれぞれ1文で記載している（2文構成）

演習課題 05 （20点）

画像生成AIの活用例

評価観点	配点	評価基準
活用例の数	8点	具体的な活用例を2つ挙げている（番号や箇条書きで明示している）
各活用例の効果	8点	各例に対し効果（効率化・品質向上など）を1文で説明している
対応関係	4点	活用例①と効果①、活用例②と効果②が対応している構成になっている

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 03

自己採点基準表



演習課題 01 （25点）

ChatGPTの特徴

評価観点	配点	評価基準
特徴の数	5点	ChatGPTの特徴を2つ挙げている（番号または箇条書きで明示している）
各特徴の説明	10点	各特徴がどのような場面で役立つかを1文で説明している
対応関係	5点	特徴①と説明①、特徴②と説明②が対応している構成になっている
専門用語の使用	5点	「自然言語処理」「生成AI」「文章生成」など、ChatGPTの特徴に関連する専門語を1つ以上使用している

演習課題 02 （25点）

良いプロンプトの4要素

評価観点	配点	評価基準
要素の網羅	10点	「目的」「背景」「条件」「出力形式」の4要素をすべて挙げている
各要素の説明	10点	各要素の役割を1文で説明している
明確な区切り	5点	各要素を番号または改行で区切って記載している

演習課題 03 （25点）

トーン・文体調整の目的

評価観点	配点	評価基準
選択の正確さ	5点	「ブランドや顧客層に合わせるため」「読者の印象をコントロールするため」の2つを選択している
各理由の説明	15点	それぞれの選択肢について理由を1文で説明している
表現の対応	5点	選択肢と理由が対応している構成になっている

演習課題 04 （25点）

業務利用時の注意点

評価観点	配点	評価基準
注意点の数	5点	ChatGPTを安全に使うための注意点を2つ挙げている（番号または箇条書きで明示）
各理由の説明	10点	各注意点について理由を1文で説明している
セキュリティ言及	5点	「個人情報」「社外秘」「情報漏えい」などセキュリティ関連語を1つ以上含んでいる
構成の対応	5点	注意点①と理由①、注意点②と理由②が対応している構成になっている

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 04

自己採点基準表



演習課題 01 （20点）

良いプロンプト設計の目的

評価観点	配点	評価基準
明確さの説明	8点	「出力の精度を高める」「曖昧さを減らす」など、目的の明確化に言及している
効果の説明	8点	「望む結果を得やすい」「一貫性が保たれる」など、成果や効果に言及している
一文構成	4点	理由と効果を1文でまとめて説明している

演習課題 02 （20点）

ステッププロンプトの使い方と目的

評価観点	配点	評価基準
定義の明記	6点	「ステップごとに指示を出す」「段階的に考えさせる」などの説明を含んでいる
目的の説明	8点	「複雑な課題を整理」「精度向上」など、目的を1文で説明している
構成の明瞭さ	6点	「使い方→目的」の順に書かれている（2文構成）

演習課題 03 （20点）

改善プロンプトの作成

評価観点	配点	評価基準
改善内容の反映	8点	「文章が短く魅力が伝わりにくい」という課題に対応している
表現力の向上	8点	季節感・特徴・感情表現などを加えて魅力を高めている
文法の自然さ	4点	日本語として自然でスムーズな文章になっている

演習課題 04 （40点）

業務利用時の注意点

評価観点	配点	評価基準
目的の明記	10点	「どんな紹介文を作りたいか」が1文で明示されている
条件の記載	10点	「トーン」「長さ」「文体」など、具体的な条件が含まれている
対象の特定	10点	「誰向けの紹介文か（例：20代女性向け）」などが含まれている
形式の指示	10点	「箇条書き」「3文構成」など、出力形式の指定がある

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 05

自己採点基準表



演習課題 01 （20点）

商品紹介文に求められる4つの要素

評価観点	配点	評価基準
要素の網羅	8点	「商品情報」「ターゲット」「トーン」「目的」など、4つの要素をすべて挙げている
各要素の説明	8点	各要素の役割を1文で具体的に説明している（例：「ターゲットは誰に向けた文章かを決めるため」など）
構成の明確さ	4点	各要素を番号または改行で区切って記載している

演習課題 02 （20点）

良いプロンプトへの書き換え

評価観点	配点	評価基準
目的の明記	5点	「どんな紹介文を作りたいか」が1文で明示されている
対象の特定	5点	「誰に向けた紹介文か（例：20代女性向け）」が明記されている
トーン指定	5点	「ナチュラル」「上品」などのトーンが含まれている
出力形式指定	5点	「3文構成」「箇条書き」など、出力形式を明示している

演習課題 03 （20点）

改善のポイント

評価観点	配点	評価基準
改善点の数	5点	商品紹介文の改善ポイントを2つ挙げている
内容の適合性	5点	挙げた改善点が「商品紹介文の質向上」に関するものである（例：具体性を高める・感情表現を加えるなど）
理由の明記	10点	各改善点に対して理由を1文で説明している（例：「具体的な素材名を入れることでイメージしやすくなる」など）

演習課題 04 （40点）

商品紹介文の生成プロンプト作成

評価観点	配点	評価基準
商品情報の反映	10点	商品の特徴(例:コットン素材・七分袖・春の新作など)をすべて含んでいる
対象の明記	10点	「20代女性向け」など対象層を明確に記載している
トーンの指定	10点	「ナチュラルでやわらかい印象」などブランドトーンを含んでいる
出力指示の明確さ	10点	「魅力的に紹介する」「3文構成で書く」など、出力の方向性が具体的に指示されている

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 06

自己採点基準表



演習課題 01 （20点）

SNS投稿文とキャッチコピーの目的の違い

評価観点	配点	評価基準
両者の目的を述べている	8点	「SNS投稿文＝情報・共有・拡散」「キャッチコピー＝印象・感情・購買意欲喚起」といった、目的の方向性の違いに言及している。
SNS投稿文の特徴を説明	6点	SNS投稿文の目的を「情報提供」「親近感形成」「双方向性」などの語で具体的に述べている。
キャッチコピーの特徴を説明	6点	キャッチコピーの目的を「短く印象づける」「感情に訴える」「行動喚起」などの語で述べている。

演習課題 02 （20点）

ChatGPTでSNS投稿文を作成する際のプロンプト要素

評価観点	配点	評価基準
4つの情報をすべて挙げる	8点	「目的」「ターゲット」「トーン・文体」「出力形式」の4つすべてを挙げている（1つ欠けるごとに−2点）。
目的の説明	3点	「何を伝えたいか」や「投稿の狙い」などを理由として説明している。
ターゲットの説明	3点	「誰に向けて」や「表現の最適化」などの意図を説明している。
トーン・文体の説明	3点	「ブランドらしさ」「印象統一」などの説明がある。
出力形式の説明	3点	「本文・ハッシュタグ・構成」など、形式の指定に関する説明がある。

演習課題 03 （20点）

キャッチコピーの要素分析（情報・感情・行動）

評価観点	配点	評価基準
含まれている要素をすべて特定している	10点	「情報」「感情」「行動」の3分類のうち、該当する要素（この場合「感情」）を正しく選んでいる。
理由を述べている	10点	「春をまとおう」という表現が感情的・感覚的であるなど、語句の分析を根拠として説明している。

演習課題 04 （40点）

ChatGPTへのプロンプト作成（Instagram投稿文生成）

評価観点	配点	評価基準
条件内容を正確に反映している	10点	商品名（春の新作「白いブラウス」）、特徴（コットン・七分袖・ゆったり）をすべて含めている。
ブランドトーンを反映している	10点	「ナチュラルで柔らかい」トーンが文章に反映されている（例：やわらかな語感・自然な描写）。
写真の状況を反映している	10点	「自然光の中で女性が歩く」シーン描写を含んでいる。
Instagram投稿文であることを明確に示している	10点	投稿媒体がInstagramであることを明示し、ハッシュタグや文体などInstagramらしい表現が含まれている。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 07

自己採点基準表



演習課題 01 （20点）

ブログ・読み物コンテンツがアパレルブランドにもたらす3つの効果

評価観点	配点	評価基準
3つの効果の列挙	6点	「ブランド理解の促進」「検索流入の拡大」「購買前の信頼形成」の3つすべてを挙げている。(1つ欠けるごとに-2点) [1]
ブランド理解の理由	5点	ストーリーを通してブランドの価値観を伝え、共感を得られる、といった理由を説明している。[222]
検索流入の理由	5点	SEOにより自然検索からの新規ユーザー流入を増やせる、といった理由を説明している。[333]
信頼形成の理由	4点	商品の背景や着こなし提案を通じて、購入前の不安を解消する、といった理由を説明している。[444]

演習課題 02 （20点）

SEOを意識したプロンプトに盛り込むべき要素4つとその役割

評価観点	配点	評価基準
4つの要素の列挙	8点	「キーワード」「見出し構成」「読者層」「目的・意図」の4つすべてを挙げている。(1つ欠けるごとに-2点) [8]
キーワードの役割	3点	検索上位を狙う語句を明示し、AIに焦点を合わせさせる、といった役割を説明している。 [999]
見出し構成の役割	3点	H2・H3などの構成を指定し、読みやすく整理された文章(Googleのクローラーに評価されやすい構造)を生成させる、といった役割を説明している。 [101010]
読者層の役割	3点	誰に向けた記事かを設定し、語り口やトーンを最適化する、といった役割を説明している。 [111111]
目的・意図の役割	3点	記事の狙い(集客・啓発・信頼構築など)を明示して、内容の方向性を統一する、といった役割を説明している。 [12]

演習課題 03 （30点）

テーマ「リネン素材で楽しむ春の着こなし」のブログ構成プロンプト作成

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	10点	「構成案を作成してください」など、AIに対する命令形で明確な指示になっている。 [17]
テーマと読者層の反映	10点	テーマ「リネン素材で楽しむ春の着こなし」と読者「20代後半〜30代女性」が正確に反映されている。 [18]
トーンと形式の指定	10点	トーン「ナチュラルかつ上品」と、「H2・H3見出し形式で、導入・本文・まとめを含む構成」という出力形式が指定されている。 [19]

演習課題 04 （30点）

テーマ「オーガニックコットンが生まれるまで」のブログ本文プロンプト作成

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	10点	「ブログ本文を作成してください」など、AIに対する命令形で明確な指示になっている。[23]
テーマとトーンの反映	10点	テーマ「オーガニックコットンが生まれるまで」とトーン「誠実で温かい」が正確に反映されている。[24]
目的と表現の指定	10点	「ブランドの環境配慮への姿勢が伝わるように」という目的と、「共感を呼ぶエピソードや感情表現を加えて」という具体的な表現が指定されている。[25252525]
評価観点	配点	評価基準

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 08

自己採点基準表



演習課題 01 （20点）

メールやチャット対応がアパレルブランドにとって重要な理由3つ

評価観点	配点	評価基準
ブランドイメージの維持	7点	文体やトーンがブランドの世界観を伝える役割を果たすため、といった理由を説明している 。
顧客満足度の向上	7点	誠実で丁寧な対応が、安心感と信頼感を与えるため、といった理由を説明している 。
クレームリスクの軽減	6点	顧客の不安や誤解を早期に解消し、トラブルを防ぐため、といった理由を説明している。

演習課題 02 （20点）

生成AIを活用して対応文を作成する際の基本プロセス5つのステップ

評価観点	配点	評価基準
5つのステップの列挙	10点	「目的を明確にする」「顧客状況と感情を整理する」「ブランドトーンを設定する」「プロンプトを作成しAIに入力する」「生成結果を確認・修正する」の5つすべてを挙げている 。(1つ欠けるごとに-2点)
目的と感情の整理	5点	目的が曖昧だと一般的な文しか出せないことや、顧客の心理状況を加えることで精度が向上する、といった解説内容を含んでいる 。
確認・修正の重要性	5点	AIの出力は下書きであり 、人が最後に確認して情報の正確性や温度感を調整する 、といった解説内容を含んでいる。

演習課題 03 （30点）

「注文した商品がまだ届かない」問い合わせへのプロンプト作成

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	10点	「返信文を作成してください」など、AIに対する命令形での明確な指示になっている 。
トーンと目的の反映	10点	トーン「落ち着いて誠実」 、目的「不安を和らげ、状況を丁寧に説明する」 という2軸が反映されている。
具体的な内容の指定	10点	「発送状況を確認中であること」と「お詫びの言葉」を添えるという、返信内容の要素が指定されている 。

演習課題 04 （30点）

返品希望(顧客:やや不満)への対応プロンプト作成

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	10点	「返信文を作成してください」など、AIに対する命令形での明確な指示になっている 。
感情とトーンの反映	10点	顧客の感情「やや不満」 と、ブランドトーン「丁寧で温かい」 262626 が反映されている。
目的と表現の指定	10点	「お詫びと今後の対応方針を説明する」という目的 と、「お客様の不快な気持ちを和らげ、誠実な姿勢が伝わるように」という具体的な表現が指定されている 。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 09

自己採点基準表



演習課題 01 （20点）

顧客アンケートがアパレルブランドにとって果たす役割3つとその意義

評価観点	配点	評価基準
3つの役割の列挙	6点	「顧客ニーズの把握」「ブランド信頼の向上」「新商品の企画支援」の3つすべてを挙げている。(1つ欠けるごとに-2点)
ニーズ把握の意義	5点	顧客の満足・不満の声から、商品改良やサービス改善の方向性を明確にできる、といった意義を説明している。
信頼向上の意義	5点	意見を聞き入れ反映する姿勢が、顧客との信頼関係を深める、といった意義を説明している。
企画支援の意義	4点	購入理由や使用シーンを分析することで、次の商品開発に活かせる、といった意義を説明している。

演習課題 02 （20点）

従来型分析とAI分析の長所と短所の比較

評価観点	配点	評価基準
従来型分析 長所	5点	「人の感性で細かなニュアンスを読み取れる」ことに言及している。
従来型分析 短所	5点	「時間と労力がかかり、主観が入りやすい」ことに言及している。
AI分析 長所	5点	「大量データを短時間で整理・分類でき、傾向を定量的に把握できる」ことに言及している。
AI分析 短所	5点	「文脈や感情の微妙な違いを完全には理解できない」ことに言及している。

演習課題 03 （30点）

自由記述アンケートを分析させるプロンプト作成

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	10点	「分析してください」など、AIに対する命令形での明確な指示になっている。
分析観点の明確化	10点	「良かった点と改善が望まれる点を分けて整理」という分析の軸（観点）が指定されている。
アンケート内容の包含と形式の指定	10点	実際のアンケート内容をプロンプトに含め、「それぞれ一文でまとめてください」という出力形式が指定されている。

演習課題 04 （30点）

新作ワンピースのアンケート分析プロンプト作成（頻出意見の把握）

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	10点	「分析してください」など、AIに対する命令形での明確な指示になっている。
目的の正確な反映	10点	「よく出てくる意見や要望を把握し、デザイン改善に活かすこと」という目的が反映されている。
出力形式の具体的指定	10点	「頻出する意見の上位5項目を箇条書きで提示し、それぞれ簡潔に要約してください」という、実務的な出力形式が指定されている。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 10

自己採点基準表



演習課題 01 （20点）

アパレル業界における市場調査の目的3つとその意義

評価観点	配点	評価基準
顧客ニーズの把握	7点	消費者の嗜好・購買動機・不満点を把握し、次期コレクションや商品開発に反映するため、といった意義を説明している。
競合状況の理解	7点	他ブランドの動向や価格帯、販促手法を分析し、自社のポジションを明確化するため、といった意義を説明している。
市場機会の発見	6点	トレンドやライフスタイルの変化から、まだ満たされていないニーズや新しいターゲット層を見つけるため、といった意義を説明している。

演習課題 02 （20点）

AIによる市場分析で発生し得るリスク3つとその対策

評価観点	配点	評価基準
誤情報や偏ったデータのリスク	7点	信頼性のあるデータソースを複数参照し、一次情報との照合を行う、といった対策を述べている。
文脈誤解のリスク	7点	AIの分析結果を鵜呑みにせず、人が内容を再確認・再解釈する、といった対策を述べている。
個人情報や倫理問題のリスク	6点	公開情報のみを使用し、機密データを扱う場合は匿名化・同意取得を徹底する、といった対策を述べている。

演習課題 03 （30点）

「2024年秋冬の国内アパレル市場」分析プロンプト作成

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	10点	「分析してください」など、AIに対する命令形での明確な指示になっている。
分析対象の明確化	10点	対象（日本国内の主要ファッションブランド）、期間（2024年秋冬シーズン）、目的（デザイン傾向と戦略の把握）がすべて指定されている。
出力形式の具体的指定	10点	「トレンド要素（色・素材・シルエットなど）とブランド事例を対応づけて整理してください」という、実務的な出力形式が指定されている。

演習課題 04 （30点）

新規ブランド立ち上げ前の市場調査プロンプト作成

評価観点	配点	評価基準
分析テーマの妥当性	10点	新規事業立ち上げに必要な「競合把握」や「市場の隙間」に着目した分析テーマを設定できている。
ターゲットとジャンルの明確化	10点	ターゲット層（例：20代後半女性）とジャンル（例：ミニマルファッション）が具体的に指定されている。
戦略的示唆を求める指示	10点	競合情報（価格帯・チャネル・デザイン）の整理に加えて、「新規ブランドが参入できる市場の隙間（ポジション）を提案してください」という、戦略的示唆を求める指示が入っている。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 11

自己採点基準表



演習課題 01

（20点）

SWOT分析の4要素の説明とアパレルブランドにおける具体例

評価観点	配点	評価基準
強み（説明と例）	5点	独自デザイン力やリピーターの多さなど、自社が他社より優れている要素（内部要因）の説明と、国内生産による高品質な仕立てなどの具体例を挙げている。
弱み（説明と例）	5点	改善が必要な課題やリソース不足など（内部要因）の説明と、SNS発信力が低く若年層への認知が弱いなどの具体例を挙げている。
機会（説明と例）	5点	市場や環境の変化によって得られるチャンス（外部要因）の説明と、サステナブル素材への関心が高まっているなどの具体例を挙げている。
脅威（説明と例）	5点	競合や外部要因によるリスク（外部要因）の説明と、海外ファストファッションの低価格攻勢などの具体例を挙げている。

演習課題 02 （20点）

ペルソナ設計におけるAIと人の作業の違い

評価観点	配点	評価基準
AIが得意な作業3つ	8点	顧客データの分析・傾向抽出、SNS投稿やレビューのテキストマイニング、顧客層ごとの購買パターンの可視化の3つを挙げている。（1つ欠けるごとに-3点）
人が担うべき作業3つ	8点	ブランドの方向性に合った人物像の設定、顧客の感情や価値観の解釈、クリエイティブ表現への反映の3つを挙げている。（1つ欠けるごとに-3点）
両者の違いの説明	4点	AIはデータからパターンを導くのが得意だが、「なぜその人物像がブランドらしいか」といった感性的判断は人にしかできない、といった違いを説明している。

演習課題 03 （30点）

「20～30代向けカジュアルアパレル市場」SWOT分析プロンプト作成

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	10点	「SWOT分析を行ってください」など、AIに対する命令形での明確な指示になっている。
対象市場の明確化	10点	「日本国内の20～30代向けカジュアルアパレルブランド市場」という対象市場が正確に指定されている。
分析観点と前提の指定	10点	強み・弱み・機会・脅威の要素すべてを整理することと、「最新の業界トレンドや消費者行動を踏まえて」という前提条件が指定されている。

演習課題 04 （30点）

SWOT分析とペルソナ設計を組み合わせた戦略構築の手順

評価観点	配点	評価基準
SWOT分析による方向性の決定	10点	まずSWOT分析で自社の現状を整理し、分析結果をもとにターゲット顧客層を定義する、という流れを含んでいる。
ペルソナによる具現化	10点	ペルソナを設定し、価値観・ニーズ・購買動機を明確化した上で、ブランドメッセージや商品企画を構築する、という流れを含んでいる。
AIによる検証の組み込み	10点	AIでシナリオや反応をシミュレーションし、戦略を検証する、というAIを活用した最後のステップを含んでいる。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 12

自己採点基準表



演習課題 01

（20点）

アパレル業界において、Excelやデータ処理が重要とされる理由（100～150字程度

評価観点	配点	評価基準
データの多様性の言及	10点	販売・在庫・仕入・顧客情報など多様なデータを扱うため、Excel処理が不可欠である点に言及している。
目的（分析→行動）の明確化	10点	数値の整理や傾向分析を通して、需要予測や在庫最適化、販促戦略の立案など、具体的な経営判断につなげられる点を述べている。

演習課題 02 （20点）

生成AIがExcel業務のどのような領域を支援できるか、具体例3つ

評価観点	配点	評価基準
関数作成の支援	7点	売上集計や平均値算出などの関数を自動生成する、といった具体例を挙げている。
データ整理の支援	7点	重複データや空欄を検出し、整形ルールを提案する、といった具体例を挙げている。
レポート作成の支援	6点	販売傾向を要約し、グラフや文章で報告書を生成する、といった具体例を挙げている。

演習課題 03 （30点）

「売上金額」を自動計算する関数をAIに依頼するプロンプト作成

評価観点	配点	評価基準
目的とAIへの指示の明確化	10点	目的（売上金額を自動計算する関数を教えてください）が明確で、AIに対する命令形になっている。
対象範囲の具体的指定	10点	Excelの各列のデータ内容（A列：商品名、B列：販売数、C列：単価）が正確に指定されている。
出力形式（結果の場所）の指定	10点	計算結果である「売上金額」をD列に出力する、という形式が指定されている。

演習課題 04 （30点）

販売・在庫データをAIと連携して業務効率化するための活用アイデア（150～200字程度）

評価観点	配点	評価基準
データの連携と分析の言及	10点	販売データと在庫データをAIに連携させ、売れ筋商品の自動抽出や販売推移の分析を行う、といったアイデアを含んでいる。
具体的な課題解決の提案	10点	在庫不足や過剰在庫をリアルタイムで検知し、在庫最適化を可能にする、といった課題解決を含んでいる。
担当者の役割進化への言及	10点	担当者が発注判断や販売戦略の最適化といった判断支援に集中できる、という業務の質的向上に言及している。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 13

自己採点基準表



演習課題 01

（20点）

画像生成AIの基本的な仕組み（100～150字程度）

評価観点	配点	評価基準
4ステップすべての言及	10点	「テキスト入力」「意味解析」「画像生成モデル」「出力と修正」の4ステップすべてに言及している。
プロセスの正確な説明	10点	テキスト入力で指示を受け取り、意味解析で意図を理解した後、生成モデルが画像を生成し、最後に出力と修正で完成度を高める、という一連の流れを正しく説明できている。

演習課題 02 （20点）

アパレル業界に適している画像生成AIツールの選択と理由（100字程度）

評価観点	配点	評価基準
ツールの選択	5点	提示されたツールのうち、Midjourney, DALL·E, Stable Diffusion, Nanobananaのいずれか1つを挙げている。
アパレル適性の理由	15点	選んだツールが、質感表現、光の表現、写真のような仕上がりなど、アパレル業界のビジュアル表現に特に適している具体的な理由を述べている。

演習課題 03 （30点）

「秋冬新作コートのルックブック用ビジュアル」生成プロンプト作成（4要素必須）

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	7点	「プロンプト」または「ビジュアル生成の指示文」として、具体的で視覚的な表現になっている。
必須要素（季節・質感）の反映	8点	季節（秋冬）と質感（ウール、温かさなど）がプロンプトに含まれている。
必須要素（背景・構図）の反映	8点	背景（街角、レンガ造りなど）と構図（全身、クローズアップなど）がプロンプトに含まれている。
印象の具体性	7点	「やわらかい日差し」「柔らかい印象」など、ブランドトーンや空気感を連想させる言葉が含まれている。

演習課題 04 （30点）

「ブランドキャンペーン用キービジュアル」生成プロンプト作成（都市×軽やかさ）

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	7点	「ブランドキャンペーン用のキービジュアル」を生成するための具体的で視覚的な表現になっている。
テーマ（都市×軽やかさ）の表現	8点	「都市ビル群を背景に」「風に揺れる軽やかなドレス」など、テーマを表現する具体的な要素が含まれている。
光・色の意識	8点	光（透明感のある光、夕暮れなど）と色（淡いブルーとベージュなど）がプロンプトに含まれている。
構図の意識	7点	構図（広角、奥行きを感じるなど）がプロンプトに含まれている。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 14

自己採点基準表



演習課題 01

（20点）

画像生成AIの基本的な仕組み（100～150字程度）

評価観点	配点	評価基準
4ステップすべての言及	10点	「テキスト入力」「意味解析」「画像生成モデル」「出力と修正」の4ステップすべてに言及している。
プロセスの正確な説明	10点	ユーザーのテキスト入力から始まり、AIが意味解析し、画像生成モデルが学習データをもとに画像を生成し、最後に出力と修正を行う、という一連の流れを正確に説明できている。

演習課題 02 （20点）

ファッション分野における画像生成AIの主な活用目的3つとその簡潔な説明

評価観点	配点	評価基準
3つの目的の列挙	6点	「商品デザイン支援」「販促ビジュアル制作」「顧客体験向上」の3つすべてを挙げている。(1つ欠けるごとに-2点)
商品デザイン支援の説明	5点	デザイナーが発想段階でアイデアを視覚化し、試作コストを抑えられる、といった説明をしている。
販促ビジュアル制作の説明	5点	広告やSNS用の画像を短時間で生成し、ブランドトーンに合わせた表現を量産できる、といった説明をしている。
顧客体験向上の説明	4点	ユーザーが自分の好みや体型に合わせた着用イメージを生成し、購買意欲を高める、といった説明をしている。

演習課題 03 （30点）

ブランドトーンを保ちながら多様なビジュアル展開を行うためのポイント2つ

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	5点	「プロンプト」または「ビジュアル生成の指示文」として、具体的で視覚的な表現になっている。
必須要素(季節)の反映	6点	季節(秋冬)がプロンプトに含まれている。
必須要素(質感)の反映	6点	質感(ウール、温かさ、ふんわり感など)がプロンプトに含まれている。
必須要素(背景)の反映	6点	背景(街角、レンガ造りの建物など)がプロンプトに含まれている。
必須要素(構図)の反映	7点	構図(全身、自然光、柔らかい印象など)がプロンプトに含まれている。

演習課題 04 （30点）

「ブランドキャンペーン用キービジュアル」生成プロンプト作成（都市×軽やかさ）

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	5点	「キービジュアル生成のプロンプト」として、具体的で視覚的な表現になっている。
テーマ（都市）の表現	7点	「夕暮れの都市ビル群を背景に」など、都市を表現する具体的な要素が含まれている。
テーマ（軽やかさ）の表現	7点	「風に揺れる軽やかなドレス」など、軽やかさを表現する具体的な要素が含まれている。
光・色の意識	6点	光（透明感のある光、夕暮れなど）と色（淡いブルーとベージュなど）がプロンプトに含まれている。
構図の意識	5点	構図（広角、奥行きを感じるなど）がプロンプトに含まれている。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 15

自己採点基準表



演習課題 01 （20点）

「春のカジュアルコーディネート」提案画像生成プロンプト作成

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	5点	「ビジュアルを生成してください」など、AIに対する命令形での明確な指示になっている。
アイテム構成の指定	5点	提案する具体的なアイテム（淡いピンクのニット、白のプリーツスカートなど）が指定されている。
背景と季節感の指定	5点	春の要素（桜並木、春の街角など）と背景が指定されている。
モデルとトーンの指定	5点	モデルの特徴（20代女性など）と、ブランドトーン（清潔感と軽やかさなど）が指定されている。

演習課題 02 （20点）

「オンライン販売ページに掲載するコーディネート画像」の購買促進プロンプト作成

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	5点	「オンラインショップ用」や「画像を生成してください」など、AIに対する明確な指示になっている。
購買促進に繋がる構図の指定	5点	全身を正面から撮影したような構図など、商品全体がはっきり見える構図を指定している。
照明/背景の指定	5点	自然光のスタジオ、シンプルな白背景など、商品の色や形を正確に伝えるための条件を指定している。
目的（販促）の反映	5点	清潔感を重視するなど、ECにおける商品の信頼性を高めるための要素を含んでいる。

演習課題 03 （30点）

顧客属性に基づく「パーソナライズされたスタイリング提案画像」プロンプト作成

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	6点	「提案画像を作成してください」など、AIに対する命令形での明確な指示になっている。
属性情報の指定	8点	顧客の属性（30代の働く女性など）をプロンプトに含めている。
利用シーンと目的の指定	8点	オフィスにも着ていける、きれいめカジュアルコーデなど、利用シーンと目的が具体的に指定されている。
具体的なアイテムの指定	8点	ベージュのトレンチコートに白シャツ、黒パンツなど、提案する具体的なアイテムが指定されている。

演習課題 04 （30点）

バーチャル試着機能を想定した、リアルタイム着用イメージ生成プロンプト設計

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	6点	「着用イメージを確認できるプロンプト」または「生成してください」など、AIに対する明確な指示になっている。
ユーザー操作の反映（商品要素）	8点	サイズ変更（MからL）、背景の切り替え（室内から屋外）など、ユーザー操作による変化の要素を含んでいる。
リアルタイム性の要求	8点	リアルタイムで変化が反映されるように生成、という速度や機能面への要求を含んでいる。
リアリティの要求	8点	光の質感を自然に調整など、画像の自然さ・リアリティを保つための調整要素を含んでいる。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 16

自己採点基準表



演習課題 01 （20点）

生成AI活用画像の品質チェックリスト作成（3つの視点必須）

評価観点	配点	評価基準
技術的品質のチェック項目	7点	解像度・構図・明るさに破綻がないか、不自然な人体・物体の歪みがないか、といった項目を含んでいる。
ブランド整合性のチェック項目	7点	ブランドカラー・フォント・ロゴ位置がルールに合致しているか、実物の商品イメージと乖離していないか、といった項目を含んでいる。
法的・倫理的リスクのチェック項目	6点	差別的・不快・誤解を招く要素が含まれていないか、著作権・肖像権の侵害リスクがないか、といった項目を含んでいる。

演習課題 02 （20点）

店頭POP企画の情報構成案作成

評価観点	配点	評価基準
メッセージの優先順位の明確化	7点	メインコピー（感情を動かす言葉）やメインビジュアル（視線を集める中心）を最優先とし、情報伝達の順序を設計している。
視覚的強調要素の明確化	7点	視線を集める中心（メインビジュアル）や、明快にすべき要素（商品名・価格情報）を明確に示している。
購買に必要な情報の網羅	6点	商品名・価格情報・ブランドロゴ・行動喚起など、購買判断に必要な基本情報を含んでいる。

演習課題 03 （30点）

春キャンペーンバナー生成プロンプトと選定理由の論理的説明

評価観点	配点	評価基準
プロンプトの具体的指示	10点	季節、背景、光、色調、モデルの感情など、視覚的な要素を具体的に指定したプロンプトを作成している。
選定理由（視覚的品質）	10点	光・構図・色調のバランスがとれているかなど、視覚的品質の観点から理由を説明できている。
選定理由（ブランド整合性・感情的共鳴）	10点	自社トーンに合うか、見た人に与える感情が意図通りかなど、ブランド整合性や感情的共鳴の観点から理由を説明できている。

演習課題 04 （30点）

店舗POP制作プロンプトとデザイン上の工夫

評価観点	配点	評価基準
プロンプトの具体的指示	10点	セール情報（SPRING SALEなど）、背景、文字色、モチーフなど、POPの視覚要素を具体的に指定したプロンプトを作成している。
視認性の工夫	10点	白背景に赤文字、遠くからでも明るく見える構図など、コントラストや明るさを意識した視認性の工夫を示している。
訴求力（構図）の工夫	10点	中央に配置するなど、情報伝達の優先順位と訴求力を両立させる構図の工夫を示している。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 17

自己採点基準表



演習課題 01 （20点）

Webサイトにおける素材生成に「生成AI」を活用する意義（3つの観点）

評価観点	配点	評価基準
業務効率の意義	7点	素材制作の初期案を素早く出し、修正時間を短縮できる、といった理由を説明できている。
ブランド表現の意義	7点	統一したトーンで多様なビジュアルを展開できる、といった理由を説明できている。
クリエイティブの拡張の意義	6点	人間の発想を超えた構図や色彩を試せる、といった理由を説明できている。

演習課題 02 （20点）

Web素材作成時のプロンプト設計で注意すべき3つのポイントとその理由

評価観点	配点	評価基準
目的の明確化と理由	7点	目的の明確化を挙げ、使用場所によって構図や印象が変わるため、といった理由を説明している。
トーンの統一と理由	7点	トーンの統一を挙げ、ブランドの世界観を維持するため、といった理由を説明している。
再現性の確保と理由	6点	再現性の確保を挙げ、同じ条件で生成を再現できるようにするため、といった理由を説明している。

演習課題 03 （30点）

トップページのメインビジュアルを生成するためのプロンプト作成

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	6点	「プロンプト」または「メインビジュアルを生成してください」など、AIに対する明確な指示になっている。
ブランドの世界観の反映	8点	洗練・ナチュラル・エレガントなどの抽象的なブランドトーンを具体的な表現で反映している。
背景・被写体の指定	8点	白背景、ナチュラルな質感のドレスを着た女性モデルなど、背景と被写体を具体的に指定している。
光・トーンの具体的指定	8点	明るい自然光、柔らかな光、ベージュトーンで統一など、光と色味を具体的に指定している。

演習課題 04 （30点）

商品詳細ページで使用する「商品画像と背景素材」に統一感を持たせるプロンプト設計

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	6点	「プロンプトを設計してください」または「画像を生成してください」など、AIに対する明確な指示になっている。
構図と背景の統一性の確保	8点	白背景、商品を中央に配置など、複数商品に展開できる統一された構図と背景を指定している。
光源の方向と質の指定	8点	自然光を使用し、光の方向は左上から下向きなど、光源の条件を明示的に指定している。
画質への配慮	8点	影は浅く、反射を抑えるなど、ECの商品画像に必要な情報の明快さや品質に配慮した指定を含んでいる。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 18

自己採点基準表



演習課題 01 （20点）

動画生成AIの普及がアパレル業界の映像制作プロセスにもたらした変化

評価観点	配点	評価基準
コストと時間の削減	10点	撮影現場の準備やモデルの手配といった工程を省略でき、制作コストと時間を大幅に削減できるようになった、という変化を説明している。
バリエーションの増加	10点	AIが自動で背景や動きを生成するため、短期間で多様な映像バリエーションを制作することが可能となった、という変化を説明している。

演習課題 02 （20点）

動画生成AIを活用したブランディング動画制作において最も重要な要素

評価観点	配点	評価基準
重要な要素の特定	7点	ブランドの世界観を明確に定義すること、またはそれを一貫したトーンや演出で表現すること、といった要素を特定している。
プロンプトへの言及	7点	AIによる生成結果はプロンプト次第で大きく変わるため、ブランドイメージを反映する言葉や構図の指定が鍵となる、といった説明を含んでいる。
一貫性の重要性の言及	6点	一貫したトーンや演出で表現することが重要である、といった説明を含んでいる。

演習課題 03 （30点）

新作コレクションのプロモーション動画を生成AIで制作する場合のプロンプト設計

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	6点	「プロモーション動画を生成してください」など、AIに対する明確な指示になっている。
動き（動作）と背景の指定	8点	白い背景のスタジオ、女性モデルがゆっくりと歩くなど、モデルの動作や背景を指定している。
光と雰囲気（トーン）の指定	8点	柔らかい自然光、ナチュラルで温かみのある雰囲気など、光とブランドトーンを指定している。
動画固有の要素の指定	8点	軽やかな音楽、ブランドロゴが最後に表示されるなど、動画や編集に関する要素を含めている。

演習課題 04 （30点）

「サステナブルな未来」をテーマにしたブランドストーリー表現プロンプト設計

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	6点	「ブランドストーリーを表現する動画を生成してください」など、AIに対する明確な指示になっている。
テーマ（サステナブル）の象徴表現	8点	自然の光に包まれた森、風に揺れる布、緑・風・光をモチーフなど、テーマを象徴する具体的なビジュアルを含んでいる。
感情・メッセージの表現	8点	衣服を着たモデルが現れ、やさしく微笑む、サステナブルな価値を象徴する映像など、メッセージ性を込めた表現を含んでいる。
動画固有の要素（音）の指定	8点	静かなピアノのBGMなど、音響要素に関する指定を含めている。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 19

自己採点基準表



演習課題 01 （20点）

AIによるスタイリング提案がアパレル業界にもたらす最大の変化（3つの観点）

評価観点	配点	評価基準
顧客体験の変化	7点	顧客一人ひとりに最適化された提案を実現し、体験の質を高める点で大きな変化をもたらしている、という説明を含んでいる 。
ブランド運用の変化	7点	表現やトーンの統一を保ちながら大量のビジュアル生成が可能になり、運用の幅が広がっている、という説明を含んでいる 。
生産性の変化	6点	生産性の向上により、スタイリストやデザイナーは創造的業務に集中できるようになっている、という説明を含んでいる 。

演習課題 02 （20点）

AIスタイリング提案を運用する上で、ブランドのトーン&マナーを維持するために必要な仕組み

評価観点	配点	評価基準
ブランドルール（ガイドライン）の学習	10点	AIに明確な「ブランドルール」を学習させること、または使用する色、ポーズ、背景、言葉遣いなどを具体的に定義し参照させること、といった仕組みを含んでいる 。
人によるレビュー運用体制	10点	出力結果をクリエイティブ担当者がレビューし、ブランド整合性を確認する運用体制を設けること、といった仕組みを含んでいる 。

演習課題 03 （30点）

AIに「ブランドの世界観を反映したスタイリング提案」をさせるためのプロンプト作成

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	6点	「プロンプト」または「コーデを提案してください」など、AIに対する明確な指示になっている。
ターゲット層の指定	8点	30代女性向けなど、ターゲット層を具体的に指定している。
シーンと色調の指定	8点	オフィスでも休日でも着られる、ベージュ系など、利用シーンや色調を指定している 。
抽象的なトーンの指定	8点	知的で優しいなど、ブランドトーンを表現する抽象的なキーワードを含めている。

演習課題 04 （30点）

AIを使って「複数パターンのスタイリング提案」を生成するプロンプトと運用方法

評価観点	配点	評価基準
複数パターン生成プロンプト	10点	ターゲット、ブランド、アイテムを指定した上で、「5パターン提案してください」など、複数パターンを要求している 。
パターンごとのテーマ設定	10点	華やか、ナチュラル、モードなど、パターンごとに明確なテーマを設定するよう指示している。
生成後の運用方法の説明	10点	チームで最もブランドトーンに合うものを選定し、良質な出力を今後のキャンペーン素材として保存・再利用するなど、具体的な運用方法を含んでいる。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 20

自己採点基準表



演習課題 01 （20点）

国内ファッション業界におけるAI活用の広がりを支える社会的背景3つとその影響

評価観点	配点	評価基準
労働人口の減少	7点	省人化・自動化のニーズが高まっている、という影響を説明している。
デジタル化の進展	7点	データ活用による業務効率化が可能になっている、という影響を説明している。
消費行動の多様化	6点	パーソナライズされた提案が求められている、という影響を説明している。

演習課題 02 （20点）

UNIQLOとZOZOのAI活用事例の比較

評価観点	配点	評価基準
UNIQLO（需要予測）	5点	需要予測に言及し、効率化や供給最適化につながるという特徴を記述している。
UNIQLO（在庫管理）	5点	在庫管理に言及し、業務効率化や供給最適化につながるという特徴を記述している。
ZOZO（データ活用）	5点	体型データや個人情報の活用（データ活用）に言及している。
ZOZO（個別最適化）	5点	顧客体験の個別最適化に強みがある、といった特徴を記述している。

演習課題 03 （30点）

AI導入によって国内ブランドにもたらされた「顧客との関係性の変化」（具体例付き）

評価観点	配点	評価基準
変化の特定（接点の増加）	10点	AIによるレコメンドやチャット接客の導入で、顧客との接点が増えた、という変化を説明している。
コミュニケーションの質的変化	10点	双方向的なコミュニケーションが可能になった、という質的な変化を説明している。
具体例による裏付け	10点	AIが顧客の過去履歴や購買動機を分析し、リアルタイムで提案を行うなど、具体的な例を挙げている。

演習課題 04 （30点）

AI導入による国内ファッション業界の課題と今後求められる方向性

評価観点	配点	評価基準
課題の整理（データ・人材）	10点	データ整備の不十分さ、AI人材の不足など、AI導入・運用面の課題を挙げている。
課題の整理（創造性・独自性）	10点	ブランドの独自性低下の懸念など、創造性やブランディングに関する課題を挙げている。
方向性の提示（共創・人材）	10点	共創型AI活用の推進、人材育成、倫理的配慮の徹底など、解決に向けた方向性を提示している。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 21

自己採点基準表



演習課題 01 （20点）

海外ブランドが生成AIを導入する主な目的

評価観点	配点	評価基準
創造的価値の拡張	10点	デザインや顧客体験などの創造的価値を拡張し、ブランドの表現力を高めること、といった目的を含んでいる。
共創による新しい価値の創出	10点	効率化やコスト削減も一因だが、最終的には「人間とAIの共創」による新しい価値の創出が中心的な目的となっている、といった説明を含んでいる。

演習課題 02 （20点）

海外ブランドにおけるAI活用が直面している倫理的・社会的課題

評価観点	配点	評価基準
課題（著作権）	5点	学習データの著作権侵害の可能性に言及している。
課題（文化的偏り）	5点	学習データによる文化的偏りや環境負荷といった社会的課題に言及している。
対応への要求（透明性・倫理）	10点	生成AIの透明性や倫理的利用を確保しつつ、ブランドとして社会的責任を果たす姿勢が求められている、といった対応に言及している。

演習課題 03 （30点）

ナイキやパタゴニアのAI活用事例に共通する特徴の整理

評価観点	配点	評価基準
顧客体験の最適化	10点	AIを用いて、データに基づくパーソナライズ提案などを行い、顧客体験を最適化している、という点に言及している。
ブランド哲学の体現	10点	AIを用いて、ブランド哲学（理念や環境意識）を体現する形で運用している、という点に言及している。
持続可能な運用	10点	環境や理念に沿った持続可能な運用を実現している点、またはAIがブランドの思想を支える構造を確立している点、といった共通性を指摘している。

演習課題 04 （30点）

海外ブランドのAI活用動向を踏まえて、今後日本のアパレル業界が学ぶべき点

評価観点	配点	評価基準
AIの役割の再定義	10点	AIを単なる効率化ツールではなく、ブランド哲学に結びつけ、顧客体験を高めるための手段として位置づけるべき点に言及している。
独自の共創モデルの確立	10点	日本的な美意識を活かした「人とAIの共創モデル」を確立することが求められる、という方向に言及している。
創造性と強みの活用	10点	文化的背景や日本らしい創造性といった強みを生かした独自の活用法が重要である、という点に言及している。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 22

自己採点基準表



演習課題 01

（20点）

生成AIを導入する際、企業文化にどのような影響を与える可能性があるか

評価観点	配点	評価基準
働き方・情報共有の変化	7点	社員の働き方や情報共有の形を変化させる、といった影響を説明している。
意思決定スピードの変化	7点	意思決定のスピードを変化させる、といった影響を説明している。
挑戦的な文化の醸成	6点	効率化だけでなく、挑戦や学びを重視する文化が醸成される可能性がある、といった文化的な変化に言及している。

演習課題 02 （20点）

生成AI導入を定着させるために必要な「成功体験の共有」の定義とその効果

評価観点	配点	評価基準
成功体験の共有の定義	10点	小さな業務改善や成果をチームで共有し、AI活用の価値を実感させることを指す、という定義が含まれている。
効果（利用意欲）	2点	他の社員にも利用意欲が広がるという効果を説明している。
効果（抵抗の減少）	2点	社内全体の心理的抵抗が減るという効果を説明している。
効果（挑戦的文化）	2点	挑戦的な文化が育つという効果を説明している。
効果（可視化・称賛）	2点	成果を可視化し、称賛することに言及している。
効果（リテラシー向上）	2点	全社的なデジタルリテラシー向上につながるという効果を説明している。

演習課題 03 （30点）

架空のアパレル企業での業務効率化アイデア提案

評価観点	配点	評価基準
提案の具体的課題解決	10点	在庫管理の履歴データなど具体的なデータをAIに分析させる、という提案を含んでいる。
提案の目的	10点	販売トレンドを自動的に可視化する、というAIが得意とする分析を提案している。
期待される効果	10点	発注量の調整や廃棄ロス削減が可能になる、といった具体的な業務効率化と成果に言及している。

演習課題 04 （30点）

生成AI導入を全社に広げるための社内施策の提案

評価観点	配点	評価基準
施策の具体性	10点	「AIチャレンジウィーク」を設けるなど、全員が参加できる具体的かつ実行可能なイベントを提案している。
施策の目的（参加と自主性）	10点	全社員が業務でAIを使って改善事例を発表するなど、自主的な参加と実践を促す目的を含んでいる。
施策の目的（文化の醸成）	10点	優れた事例を全社で共有するなど、横展開や挑戦的な文化の醸成につながる仕組みを含んでいる。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 23

自己採点基準表



演習課題 01

（20点）

社内におけるAI導入教育の目的と、単発の研修では不十分な理由

評価観点	配点	評価基準
目的（理解）	3点	社員がAIを理解するという目的に言及している。
目的（日常に活かす）	4点	日常業務に活かせるスキルを身につけるという目的に言及している。（重要項目）
目的（継続的に身に着ける）	3点	スキルを継続的に身につけるという目的に言及している。
NG理由（学習の定着）	3点	学習の定着が難しいという理由を説明している。
NG理由（実践）	3点	実践が難しいという理由を説明している。
NG理由（文化として根付かない）	4点	社内文化として根付かないという理由を説明している。（重要項目）

演習課題 02 （20点）

AI推進担当者が社内教育を行う際に直面しやすい課題3つとその解決策

評価観点	配点	評価基準
課題（現場の理解不足）	2点	課題として「現場の理解不足」を挙げている。
解決策（基礎研修）	5点	解決策として、基礎研修（と成功事例共有）を挙げている。
課題（教育の継続体制がない）	2点	課題として「教育の継続体制がない」を挙げている。
解決策（フォローアップ制度）	4点	解決策として、定期的なフォローアップ制度の設計を提案している。
課題（成果が見えにくい）	2点	課題として「成果が見えにくい」を挙げている。
解決策（効果の可視化）	5点	解決策として、導入効果を可視化して経営層と共有することを提案している。

演習課題 03 （30点）

アパレル業界の新人社員向け生成AI基礎の社内勉強会プラン

評価観点	配点	評価基準
目的と期間の設定	8点	目的（基本概念と業務活用の理解促進）と期間（全3回、各90分、週1回など）を具体的に設定している。
内容の具体性	8点	AIの仕組み、画像生成のデモ、成功事例紹介など、アパレル業務に役立つ具体的な内容を含めている。
形式と特徴の設定	7点	オンライン＋対面ハイブリッド、質疑応答とミニワークを交えるなど、形式と特徴を設定している。
実務への活用の視点	7点	社員が自分の業務に活かすヒントを得る構成とするなど、実務への接続を意識している。

演習課題 04 （30点）

AI活用を推進するための「教育ロードマップ」をChatGPTで生成するプロンプト設計

評価観点	配点	評価基準
役割と明確な命令	6点	「あなたは企業のAI教育担当者です」という役割設定と、「ロードマップを作成してください」という明確な命令を含んでいる。
対象・目的・期間の指定	8点	対象（アパレル企業の全社員）、目的（AI活用の基礎理解と実務定着）、期間（6か月）を正確に指定している。
出力形式（詳細度）の指定	8点	各フェーズの目的・内容・実施方法を具体的に記述する、という詳細度に関する指定を含んでいる。
成果指標（KPI）の要求	8点	成果指標（KPI）も含めて提案する、という測定可能な要素の要求を含んでいる。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 24

自己採点基準表



演習課題 01

（20点）

AI誤用の代表的なリスク3つと、それぞれが及ぼす影響

評価観点	配点	評価基準
リスク(情報生成ミス)と影響	7点	リスクとして「情報生成ミス」を挙げ、影響として「誤った情報が拡散し、企業や個人の信用を失うリスク」を説明している。
リスク(著作権侵害)と影響	7点	リスクとして「著作権侵害」を挙げ、影響として「AI生成物が既存作品と酷似し、法的トラブルに発展する恐れ」を説明している。
リスク(データ漏洩)と影響	6点	リスクとして「データ漏洩」を挙げ、影響として「機密情報をAIに入力すると、外部に情報が流出する危険」を説明している。

演習課題 02 （20点）

AI誤用を防ぐための組織的な対策3つと、それぞれの目的

評価観点	配点	評価基準
対策（ガイドライン整備）と目的	7点	対策として「ガイドライン整備」を挙げ、目的として「利用ルールと責任範囲を明確化し、誤用の線引きを定める」ことを説明している。
対策（教育体制）と目的	7点	対策として「教育体制」を挙げ、目的として「誤用事例を共有し、リスク意識を高める」ことを説明している。
対策（複数人チェック）と目的	6点	対策として「複数人チェック」を挙げ、目的として「生成内容の確認体制を設け、誤情報の拡散を防ぐ」ことを説明している。

演習課題 03 （30点）

「AIが生成した文章をそのまま社外に出してしまった」場合に想定されるリスクと対処のためのプロンプト運用ルール3つ

評価観点	配点	評価基準
想定されるリスクの提示	10点	誤情報の拡散、ブランド信用の低下、法的責任の発生のうち、2つ以上のリスクを挙げている。
対処ルール1（確認体制）	7点	出力内容を複数人で確認するなど、最終チェックに関するルールを作成している。
対処ルール2（出典・透明性）	7点	参考元データを明示するプロンプトを使用するなど、情報源の透明性に関するルールを作成している。
対処ルール3（安全制約）	6点	機密・個人情報を含む入力を禁止するなど、データ入力の制限に関するルールを作成している。

演習課題 04 （30点）

社内でAI活用を推進するための「教育ロードマップ」をChatGPTで生成するプロンプト設計

評価観点	配点	評価基準
役割と明確な命令	6点	「あなたは企業のAI教育担当者です」という役割設定と、「ロードマップを作成してください」という明確な命令を含んでいる。
対象・目的・期間の指定	8点	対象（アパレル企業の全社員）、目的（AI活用の基礎理解と実務定着）、期間（6か月）を正確に指定している。
出力形式（詳細度）の指定	8点	各フェーズの目的・内容・実施方法を具体的に記述する、という詳細度に関する指定を含んでいる。
成果指標（KPI）の要求	8点	成果指標（KPI）も含めて提案する、という測定可能な要素の要求を含んでいる。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 25

自己採点基準表



演習課題 01

（20点）

生成AIによる出力物が著作物と認められにくい理由

評価観点	配点	評価基準
創作的要素の要件	10点	著作権法上の「著作物」として認められるためには、人間の創作的な意思や個性が直接反映されている必要がある、という要件に言及している。
AI出力の性質	10点	生成AIの出力物が、人間の創作的な意思や個性が直接反映されていないため、または学習データや確率的なアルゴリズムに基づいて作られるため、認められにくい、という理由を説明している。

演習課題 02 （20点）

企業がAI活用においてガイドラインを整備すべき理由

評価観点	配点	評価基準
リスクの未然防止	10点	AIの利用範囲や禁止事項、責任の所在を明確にし、法的・倫理的なトラブルを未然に防ぐため、というリスク回避の理由を説明している。
信頼性の向上	10点	透明性や説明責任を重視する姿勢が、企業の信頼性向上につながるため、という信頼性の観点から理由を説明している。

演習課題 03 （30点）

自社で生成AIを利用して広告画像を作成する場合に注意すべき法的・倫理的な点3つ

評価観点	配点	評価基準
著作権・肖像権の確認	10点	学習データに他者の著作物や肖像が含まれていないかを確認する、という権利侵害に関する注意点を挙げている。
倫理的・表現上の確認	10点	出力内容が差別的・攻撃的な表現を含まないかを確認する、という倫理的・表現上の注意点を挙げている。
透明性・記録の確保	10点	生成過程や使用AIモデルを社内で記録・共有する、という透明性の確保に関する注意点を挙げている。

演習課題 04 （30点）

自社のAI活用における「倫理的配慮」を社内に定着させるための取り組み案

評価観点	配点	評価基準
継続的な教育と仕組み化	10点	定期的なAI倫理研修と、チェックリストを活用した運用体制を整備する、という継続的な取り組みを提案している。
チェックリストの具体的運用	10点	AI利用前後に確認するチェックリストを導入し、判断基準を統一する、という仕組み化の具体例を提案している。
文化の醸成	10点	倫理的な判断を行った事例を社内で共有し、責任ある活用を称賛する文化を醸成することに言及している。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 26

自己採点基準表



演習課題 01

（20点）

ChatGPTの「誤情報リスク」と「著作権リスク」の違いと具体例

評価観点	配点	評価基準
誤情報リスクの定義	5点	出力内容が事実と異なる情報を含むこと、といった定義を説明している。
誤情報リスクの具体例	5点	ブランドの創業年を誤って出力するなど、事実の誤りに関する具体例を挙げている。
著作権リスクの定義	5点	他者の著作物を無断で模倣・引用すること、といった定義を説明している。
著作権リスクの具体例	5点	他社のキャッチコピーをそのまま生成するなど、権利侵害に関する具体例を挙げている。

演習課題 02 （20点）

社員が誤って個人情報を入力しないようにするための「運用ルール」3つ

評価観点	配点	評価基準
ルール1（入力前のチェック/承認）	7点	入力前に「個人情報チェックリスト」を設けるなど、入力前に社員が確認する仕組みを提案している。
ルール2（社内承認の必須化）	7点	ChatGPT利用前に社内承認を必須とするなど、正式なフローを提案している。
ルール3（レビュー/管理の徹底）	6点	生成文書は必ず管理者がレビューしてから共有するなど、出力後のチェック・管理体制を提案している。

演習課題 03 （30点）

情報漏えいリスクの発生要因3つ

評価観点	配点	評価基準
要因1（ヒューマンエラー）	10点	機密情報を直接入力してしまうヒューマンエラー、といった発生要因を挙げている。
要因2（生成データへの混在）	10点	生成結果に他社や第三者のデータが混在して出力されるケース、といった発生要因を挙げている。
要因3（管理上のミス）	10点	社内共有時に意図せず外部に転送される管理上のミス、といった発生要因を挙げている。

演習課題 04 （30点）

安全に利用するための「プロンプトテンプレート」作成

評価観点	配点	評価基準
役割の明確な設定	8点	「あなたは社内資料の作成をサポートするアシスタントです」など、AIの役割を明確に設定している。
出力内容の目的指定	8点	「説明文を提案してください」など、出力の目的を指定している。
禁止条件の明示	7点	「個人情報・社外秘・著作物の引用を含まない形で」など、禁止条件を明確に指示している。
制約対象の具体的指定	7点	個人情報、社外秘、著作物の引用など、禁止すべき対象を具体的に指定している。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 27

自己採点基準表



演習課題 01

（20点）

画像生成AIの著作権リスクについて注意すべき点

評価観点	配点	評価基準
既存作品の要素の反映	7点	AIが生成する画像には、学習段階で既存作品の要素が含まれている可能性があるという点に言及している。
権利侵害リスクの具体例	7点	有名アーティストやブランドの作風を模倣した画像を使うと、著作権や商標権を侵害するリスクがあるという点に言及している。
商用利用時の必要事項	6点	商用利用する場合は、利用規約の確認や、生成過程や出典を記録しておくことが必要であるという点に言及している。

演習課題 02 （20点）

画像生成AIを社内で安全に活用するためのガイドラインに盛り込むべき項目3つとその目的

評価観点	配点	評価基準
項目1（入力情報の制限）と目的	7点	項目として「入力情報の制限」を挙げ、目的として「顧客情報や社外秘データを入力しない」ことを説明している。
項目2（利用範囲の明確化）と目的	7点	項目として「利用範囲の明確化」を挙げ、目的として「商用・社内利用を明確に区別する」ことを説明している。
項目3（公開前の確認体制）と目的	6点	項目として「公開前の確認体制」を挙げ、目的として「法務・広報が生成物をチェックする」ことを説明している。

演習課題 03 （30点）

「春の新作コレクションの雰囲気」生成プロンプト作成（著作権・倫理配慮）

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	6点	「画像を生成してください」など、AIに対する明確な指示になっている。
季節感・光の指定	8点	春の柔らかな光など、季節感や光の質を具体的に指定している。
著作権に配慮した表現	8点	淡いパステルカラー、屋外で歩いているモデルなど、具体的なブランドや人物名を避け、非特定的要素で構成している。
雰囲気・トーンの指定	8点	自然な風と花の香りを感じる穏やかな雰囲気、ファッション撮影シーンなど、空気感やトーンを指定している。

演習課題 04 （30点）

AIで生成した画像を安全に社外公開するための手順3段階

評価観点	配点	評価基準
第1段階（生成記録の保存）	10点	1. 生成記録を保存（使用ツール名・プロンプト・日時を明記）など、生成経緯の記録に関する手順を挙げている。
第2段階（内容確認）	10点	2. 内容確認（法務・広報が著作権・表現面をチェック）など、法務・倫理チェックに関する手順を挙げている。
第3段階（公開後のモニタリング）	10点	3. 公開後のモニタリング（SNS反応や外部指摘を監視）など、公開後の監視に関する手順を挙げている。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 28

自己採点基準表



演習課題 01

（20点）

AI技術の進化がアパレル業界のデザイン工程に与える影響（具体例付き）

評価観点	配点	評価基準
発想段階への影響（補助）	7点	過去のコレクションデータやトレンド情報を分析し、次のシーズンの配色や形状を提案することで、デザイナーの発想を補助している、という点に言及している。
制作・可視化の効率向上	7点	画像生成AIを用いれば、短時間で複数のデザイン案を可視化でき、制作工程の効率が大幅に向上している、という点に言及している。
デザイナーの役割の変化	6点	デザイナーが「創り出す人」から「選び、編集する人」へと役割を変化させている、という点に言及している。

演習課題 02 （20点）

AIによるサプライチェーン最適化がもたらすメリットと課題

評価観点	配点	評価基準
メリット（効率とコスト）	5点	需要予測や在庫管理の精度を高め、コスト抑制を実現する、という点に言及している。
メリット（廃棄削減）	5点	需要予測や在庫管理の精度を高め、廃棄削減を実現する、という点に言及している。
課題（データ依存リスク）	5点	データ依存が進むことで、誤ったアルゴリズム設定や外部環境の急変によるリスクが発生する可能性がある、という課題に言及している。
課題（導入コスト・人的負担）	5点	初期コストや社員教育の負担が伴う、という課題に言及している。

演習課題 03 （30点）

顧客一人ひとりに最適な商品提案を行うプロンプト作成

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な指示	6点	「プロンプト」または「コーディネートを提案してください」など、AIに対する明確な指示になっている。
ターゲット層・好みの指定	8点	30代女性でナチュラル系のファッションを好むなど、顧客の属性や好みを具体的に指定している。
トレンド要素の組み込み	8点	今季のトレンドカラーを取り入れたなど、提案の質を高める要素を含んでいる。
価格帯・利用シーンの指定	8点	価格帯は1万円前後で、通勤にも使えるスタイルを優先など、実務的な制約条件を指定している。

演習課題 04 （30点）

AIと人間が協働する未来のファッション業界で求められる職種・スキル

評価観点	配点	評価基準
新たな職種・役割の提案	10点	「AIプロンプトデザイナー」や「データストーリーテラー」など、人間の感性とデータ分析をつなぐ新しい職種の登場を提案している。
求められるスキルの提示	10点	テクノロジーを理解しつつ、ブランドの世界観を言語化・編集できるハイブリッド型スキルが重要になる、という点を挙げている。
人間の役割（判断力）の言及	10点	AIに任せる部分と人間が担う部分を見極める判断力こそ、次世代のファッション人材に求められる、という意見を述べている。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 29

自己採点基準表



演習課題 01

（20点）

AI導入を進める際の「目的設定」について、企業が最初に行うべきステップ

評価観点	配点	評価基準
ゴールの明確化	7点	企業のビジョンに合致するゴールを明確化する、というステップに言及している。
業務課題の特定	7点	解決すべき具体的な業務課題を特定する、というステップに言及している。
KPI設定と共有	6点	成果を可視化できるKPIを設定し、関係者全体で方向性を共有する、というステップに言及している。

演習課題 02 （20点）

AI導入における「社内教育」と「リテラシー向上」の重要性

評価観点	配点	評価基準
リテラシー教育の必要性	10点	ツール操作教育だけでなく、AIの仕組みや限界を理解させるリテラシー教育が必要である、という点に言及している。
文化と価値創造	10点	社員が自ら考え、AIを活用して価値を生み出す文化を育てることが導入定着の鍵となる、という点に言及している。

演習課題 03 （30点）

AIを活用して「社内研修内容の改善点」を洗い出すプロンプト作成

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な命令	7点	「研修の改善点を分析し、3つの具体的提案を出してください」など、AIに対する明確な命令と出力条件を含んでいる。
対象・目的の指定	8点	対象（アパレル販売スタッフ）と目的（AI活用リテラシーの向上）を具体的に指定している。
現状課題の提示	8点	現状の課題（受講者の理解度にばらつきがある）など、分析に必要な現状の課題を提示している。
出力形式の指定	7点	3つの具体的提案など、出力の形式や個数を指定している。

演習課題 04 （30点）

AIを活用して「自社のAI導入ロードマップ案」を作成するためのプロンプト作成

評価観点	配点	評価基準
AIへの明確な命令	6点	「AI導入ロードマップを作成してください」など、AIに対する明確な命令を含んでいる。
業種・目的の指定	8点	業種（アパレル小売）と目的（業務効率化と顧客データ活用の両立）を具体的に指定している。
期間の指定	8点	期間（1年間）など、ロードマップの期間を具体的に指定している。
ステップ（フェーズ）の指定	8点	調査→試験導入→評価→本格展開など、具体的なフェーズ構成を指定している。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題 30

自己採点基準表



演習課題 01

（20点）

生成AIがファッション広告に与える主な影響と、従来の広告制作との違い

評価観点	配点	評価基準
スピードと多様性の向上	7点	広告制作のスピードと表現の多様性が大きく向上した、という影響に言及している。
従来の制作との違い（手作業 vs 自動生成）	7点	従来は撮影や編集に時間がかかっていたが、生成AIを使うことで短時間で多様なビジュアルを生成できる、という違いを説明している。
パーソナライズ広告の実現	6点	データを活用したパーソナライズ広告が容易になり、消費者ごとに最適化された表現が実現している、という影響に言及している。

演習課題 02 （20点）

AI広告表現の拡大に伴って生じる倫理的課題と、企業が取るべき対応

評価観点	配点	評価基準
倫理的課題の提示	10点	著作権や肖像権の侵害、データ偏りによる差別的表現、誤情報の拡散など、倫理的・法的課題を2つ以上挙げている。
企業の対応（開示・教育）	10点	生成物の出典明示やAI生成であることの開示、倫理ガイドラインの策定や社内教育を行うこと、といった対応を説明している。

演習課題 03 （30点）

ブランドキャンペーンの広告ビジュアルを作るプロンプト作成

評価観点	配点	評価基準
ブランドトーンと目的の指定	8点	上品で洗練された女性向けファッションブランド“Éclat”の春キャンペーンなど、ブランド名やキャンペーンの目的を具体的に指定している。
被写体・アイテムの指定	8点	白いワンピースを着たモデルなど、被写体やキーアイテムを指定している。
雰囲気・背景の指定	7点	柔らかな自然光、花々に囲まれているなど、光や背景を指定している。
感情・情緒の指定	7点	透明感と希望を感じさせるトーンなど、広告が喚起したい感情を指定している。

演習課題 04 （30点）

AI生成による広告を継続的に改善するための運用フローの提案

評価観点	配点	評価基準
運用サイクルの提示	10点	「生成→配信→効果測定→再生成」のサイクルを継続的に回すなど、PDCAサイクルを提案している。
データ活用の具体性	10点	配信後のデータをAIで分析し、反応の高かった要素を抽出する、というデータ活用の具体的な仕組みを提案している。
改善・学習への言及	10点	次の生成時にそれを反映させることで、広告精度を高める運用体制を構築する、という改善・学習プロセスへの言及がある。

令和７年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育（リ・スキリング）推進事業」
アパレル産業における社会変化に対応した技能アップデートプログラムの開発と実証事業

生成AIの利活用の知識と技術教育演習自己採点基準

令和８年２月

学校法人第一平田学園　中国デザイン専門学校
〒700-0842　岡山県岡山市北区船頭町１２
電話：086-225-0791

●本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。